

参考 ながさき「しま」のビジネスチャレンジの開催実績

| | 令和5年度開催 | 令和6年度開催 |
|------------------|--|---|
| 部門・対象者 | しまからチャレンジ部門 ・島外に所在地がある事業者・個人等 しまへのチャレンジ部門 ・島内に所在地がある事業者・個人等 学生部門 ・高校生、大学生、専門学校生等 | 一般部門 ・ビジネスアイデアに関する技術、サービスを提供するソリューション・経験・スキルなどを有する法人、個人(学生又は起業予定者を含む。)若しくはグループ 学生部門 ・ビジネスアイデアを有する学生(中学生、高校生、専門学校生、大学生等)個人又はグループ |
| 募集期間 | 令和5年10月3日～12月1日 | 令和6年6月28日～9月29日 |
| 部門及びビジネスコンテスト応募者 | 100件 【部門別】 しまからチャレンジ：14件 しまへのチャレンジ：32件 学生：53件 【居住地別】 県内：42件 県外：58件(うち関東24件、近畿11件、中部7件) 【うち「しま」でのビジネスチャレンジ等につながった者】 5件 ・雇用機会拡充事業へ応募、地域おこし協力隊に就任 など | 55件 【部門別】 一般：28件 学生：27件 【居住地別】 県内：17件 県外：38件(うち関東11件、近畿10件、中部5件) 【うち「しま」でのビジネスチャレンジ等につながった者】 2件 ・雇用機会拡充事業へ応募、移住予定 |

県としては、実際に「しま」への移住につながるなど、一定の成果があったものと評価しているが、以下の点について、改善が必要であると認識している。

【改善を要する点】

令和6年度において、公式HP内の応募フォーム閲覧者のうち実際に応募した者が約15.9%にとどまったこと。

応募されたビジネスアイデアにおいては、ビジネスの対象地が対馬市、壱岐市、五島市及び新上五島町に偏っており、小規模離島地域を対象としたアイデアが少なかったこと。本審査での発表者にインタビューしたところ、予備審査から本審査までの期間が短く、現地調査を行うことができなかったとの意見があったこと。

また、予備審査員へ実施したアンケートにおいて、「しま」での事業の実現は厳しいと思われるビジネスアイデアが多かったとの意見があったこと。